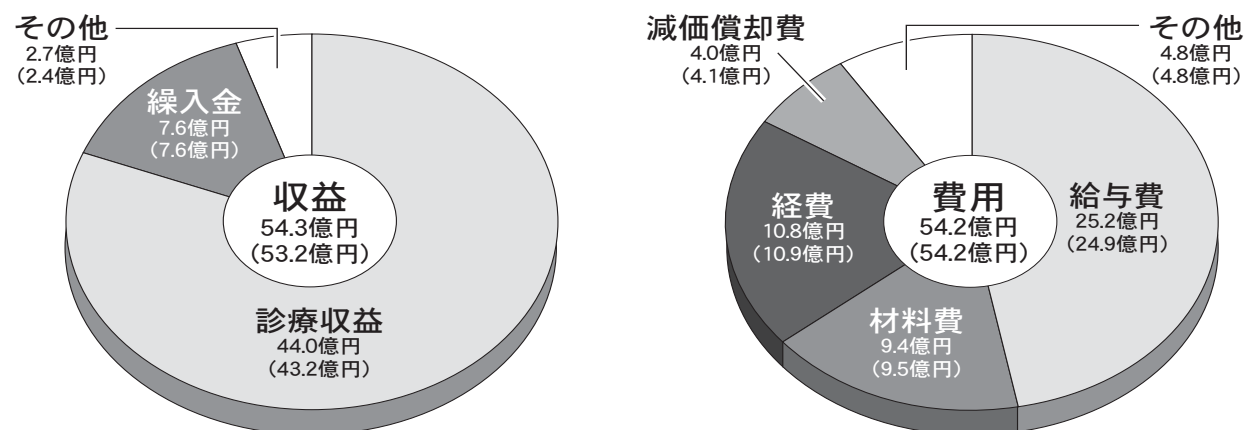


平成23年度病院事業会計予算

※（ ）内は平成22年度当初予算額

■ 損益予算

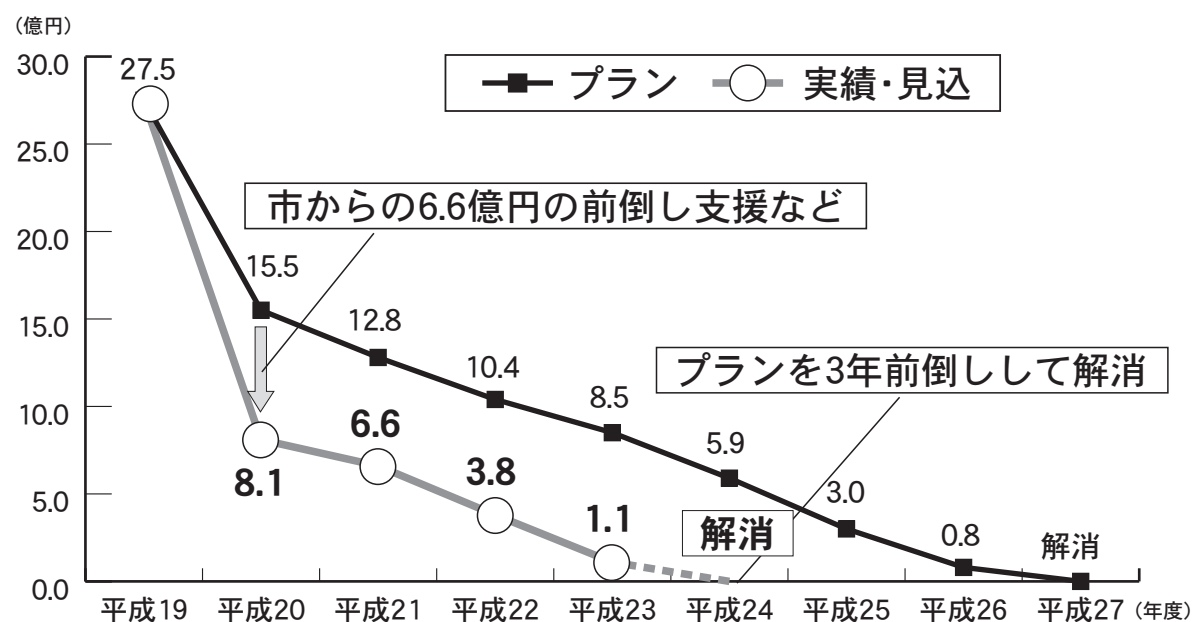
病院事業の平成23年度当初予算（損益）は、改革プランを着実に実行し、収入の確保と費用の抑制を図ることで、平成12年度決算以来11年度ぶりとなる純利益（6百万円）を計上することができました。



■ 23年度に実施する事業

- 総合内科医養成研修診療所の運営
～本年2月に開設した診療所で、総合内科医の養成研修を本格的に開始します。
- 古くなった医療情報システムを更新
～情報の一元化や事務作業の効率化を実現し、待ち時間の短縮を目指します。
- 看護師の研修派遣事業を創設
～沖縄県豊見城中央病院との交流研修を実施し、看護師のスキルアップを目指します。
- 医師事務作業補助体制を強化
～病院クラークの増員で勤務医の負担を軽減し、医師確保に努めます。

■ 累積不良債務の推移



累積不良債務は、平成20年度に市からの特別な支援を前倒ししたことでプランを大きく下回り、平成22年度決算見込みでは3.8億円に、さらに平成23年度予算においては1.1億円にまで圧縮する見込みで、平成24年度での解消に向け順調に推移しています。

病院事業会計予算に関するお問い合わせは、市立病院まで ☎49・1011

留萌市立病院

院長2期目の決意と23年度に向けて

市立病院は、第2次医療機関として留萌市民はもちろんのこと留萌管内の住民にとって欠かせない医療機関となっています。住民が安心して生活できるように医師や医療スタッフの確保など医療環境の充実を今後も図ってまいります。



留萌市立病院長
菅川 裕

私は、平成19年4月1日に西條院長の後を受け、市立病院の院長に就任いたしました。が、当時は、病院の不良債務が33億円程度に膨らみ、病院経営は危機的な状況でした。この原因としては、過去4回に及ぶ診療報酬のマイナス改定や、医師の新臨床研修医制度導入による医師不足が挙げられ、当院も大きな影響を受けることとなりました。

就任にあたり、病院の位置付けを大きく変え、院長権限を大幅に広げる地方公営企業法全部適用を実施し、企業として柔軟な組織体制と職員の企業意識の醸成を図ることとしました。また、地域住民が安心して暮らすためには、医師確保が最重要課題と考え、道内医科大学をはじめ、全国規模での医師確保に全力を挙げるとともに在宅医療の充実のため沖見診療所の開設や高

齢者医療の充実として療養病床の開設などを手掛けてきました。また、経営面では、留萌市立病院改革プランを作成し、市からの支援を受けながら、経営の安定化を図ってきたところです。

私は、就任以来4年の任期を終了し、今年度、院長として2期目を迎えることとなりました。留萌管内を取り巻く地域医療には、まだまだ大きな課題を抱えております。高齢化社会により、様々な病気を抱える市民が多くなり、その対応として医師確保が重要となっております。全国的に医師不足の中でこの地域に医師を確保することは大変なことです。ですが、引き続き道内医科大学との連携を強化することにも総合医の育成にも努力しながら医師確保に努めていきます。

また、同時に病院経営の安定化に、より一層努力し、市民の皆さんが安心して暮らせる「るもい」を目指し、今後4年間最大限の努力をしていきたいと思っております。ご支援・ご協力をよろしくお願いいたします。